

OIS

大阪府インテリア設計士協会

〒541-0059 大阪市中央区博労町1-6-14
TEL. 06-6262-1488 FAX. 06-6262-1553

URL <http://jp-interior.or.jp/ois>
blog <http://oisblog.exblog.jp>
E-mail ois@jp-interior.or.jp

編集スタッフ

広報部長：田原
広報部：石渡・広畑・河原
仲田・朝日・園田
高尾・加茂
事務局：奥田・岡崎



年頭に思うこと

副会長・千田俊治



この歳になっても酒は飲めない、たばこは吸わない、ゴルフはしない、釣りもしない、ましてや馬にニンジンなどあげたことはない。

こんな話をすると、何が楽しいの、お金でも貯めてるの（ザンネンながら貯まる程もうかってない）、趣味はあるのと尋ねられますが、幼い頃から美術が好きで、高校生の頃、美術館でドガやセザンヌの絵に出逢って胸がドキドキとした思い出があります。近頃はドキドキすると心筋梗塞かと心配になりますが・・・

学生時代に感じたことがこの道に入るキッカケとなり40数年仕

事にしてきました。苦勞したというより随分楽しませてもらった気がします。

今はこの業界も厳しい時代、いい仕事の依頼が来なくても時間をつくり美術館、名建築、庭園、工芸品など素敵なものを見て触れておきたい。お客様に安心して喜んで頂くよう頑張るのはプロとして当然、感性を磨き自分自身で常に努力しておくことが大事だと思っています。

初詣ではOISの皆様の益々のご発展をお願いしました、ついでに家庭円満も。

お初天神・2011新年会

1月9日、今年も昨年と同じお初天神の初詣でOISの行事が始まりました。集合30分前にお初天神の境内に入ると、



すでに数名の方が来ておられ、しかも、ほとんどが“かぶだちの会”の方、皆さん寒空の中で新年の挨拶や、立ち話をされ、しかも服装もコートの中は、スーツやジャケットにネクタイ姿。ラフな自分の格好と比べ先輩方の気合とパワーの違いを感じさせられました。

定刻に拝殿に上がり天神様に参拝、集合写真も撮り終わり、一同は近くの轟眞屋・梅田本店の懇親会場へ。やっと、暖かい座敷にたどり着きました。

全員が席に着き、そこここでビールを酌み交わし始めた会場を見渡すと、20歳代の会員が60～70歳の中へ、30歳代の人たちが40～50歳代の輪の中へ・・・。そこには各世代の入り混じった大家族の正月風景がありました。

宮後会長の新年の挨拶、「この一年『笑う門には福来る』で行きましょう」のことはどおりみんなが笑っていられば『笑い』という酵素パワーが、この大家族の各世代を活性化し、いい化学反応を起こそうな予感・・・、そんなひと時でした。

2011年が楽しみな一年になりますように。
(記・仲田 貴代史)

陶芸教室初体験記

陶芸をされたことがありますか？

昨秋、10月24日の日曜日に行われた「陶芸教室とアウトドアパーティ」に参加させていただきました。

少し色づき始めた野山を見ながら遠足気分のうちに到着。大阪から意外に近くに丹波立杭の里がありました。説明を受け粘土が配られます。しっとりとした粘土を手ひもづくりで形にしていきます。そこからは口数も少なくなり、ひたすら粘土と向き合うことに。作りたい形を考えてきた人、作りながら考えている人と様々ですが、それぞれの形になっていきます。薄く延ばしすぎてやり直したりと、なかなか思うようにならないものですが、そのうちに庭からはおいしそうな香りが漂ってきました。焼き鳥にスベアリブ、おでん、焼きそば、ピリ辛味のウインナーなどたくさんご用意頂いたお食事をいただきながら、初めてお会いする方々とお話がはずみます。

休日は朝からついのおぼろげな一日が終わってしまいがちですが、ちょっと郊外に出かけるとリフレッシュできますね。焼き上がりが今から楽しみです。使うたびに思い出が何倍にもなることと思います。ありがとうございました。

(記・今井 和子)



↑今井さん



ちよつと・MANA-BOZE

青年部新企画



プレゼンテーションのコツ

ようやく秋の夜長を感じるようになってきた10月15日、コラムデザインセンターで、第1回MANA-BOZEが開催されました。「学び」を目的に、社会人になる前の学生はもちろん、現役にも通じるテーマをと考えられた、青年部主催のイベントです。

第1回目この日は、知識の伝承を目的とした『プレゼンテーションのコツ～相手の気持ちを掴む』です。先輩のテクニックを学ぼうということで、かぶだちの会から宮本誠三先輩に来ていただき、色々貴重なお話を伺いました。

テーマになってるプレゼンテーションは、仕事の上でも、日常の人との会話の中でも、とても大切なkeyとなるテクニックです。自分の言葉や考えを明確に効率よく伝えることの難しさや大切さは、相手の気持ちを動かすことができたときの喜びの大きさからもわかります。出席した新人学生からベテランに至るまで真剣に話を聞き、納得がいくまで質問を重ねました。

「必要なものを、必要なだけ。簡潔にわかりやすく説明する」その上で、心を動かすメリットを明示すること。とても簡単そうに聞えるけれど、そのための情報収集がどんなに大変なことかと講義を聞いていました。でも、人の心を動かした時の喜びがあるから頑張れるんですね！そう思うと、これから体験していくであろう「産みの苦しみ」が楽しみになりそうです。

これからも青年部のこのイベントを通して、いろんな「学び」を期待しています。

(記・石渡 由華)

竹中大工道具館・見学雑感

道具類の機能美と質感に魅了されながら見学をしていて、「ひかりつけ」という作業の解説のところ、奥田さんと、これの語源は何だったのかな…ということになり、以前、唐招提寺と薬師寺見学会前日の勉強会で見せて頂いた桂離宮修復の映像を思い出しました。

私の記憶が正しければ、たしかその中でも「ひかりつけ」について触れられていて、柱や縁束などの下面と礎石のなじみ具合を調整する作業のことで、水平に透かして見て、光が洩れない状態にすることだと説明されていたと思います。

当日もそのような話をしたと思いますが、帰る道すがら何だか気になって、以前読んだ本を読み返してみました。竹中大工道具館では常設展示の他に、「棟梁、堂宮大工の世界」という開館25周年の記念展示が行われていましたが、その中心展示になっていた故・西岡常一氏に次ぐ、2人目の技術者の

人間国宝ともいえる「選定保存技術保持者」になった松浦昭次氏の著書で「宮大工千年の知恵」という文庫本です。

松浦氏は組織には属さない「渡り棟梁」という立場にあり、様々な観点から文化財級の木造建築の修復について触れておられ、その中で柱と礎石の関係は簡単にずれない工夫がされておれば、紙一枚入らないほど隙間なく合わせる必要はなく、その方が湿気がこもらず柱が腐りにくいといっておられます。

このような、ある程度の「逃げ」は大工仕事にはけっこうあるようで、それは現物と対峙することでこそ分るものだと思います。このように、理屈とは別に現物でのみ分るようなことについては、西岡棟梁も色々と言っておられ、自説を曲げないことから、学者をして「法隆寺には鬼がいる」と言わしめたそうです。

見学を終えて私が感じたのは、文化財の保存における素材の枯渇や技術の伝承の難しさを考えずにはおられず、かなり重い気分になりました。

しかしながら、見学後の南京町での懇親会では、楽しい会話の中でそんなことはすっかり忘れたように中華料理に舌鼓を打っている自分がありました。

(記・小長谷 光)



10月3日(日)

KIS(京都府インテリア設計士協会)企画

10月31日(日)

越前国の歴史と味覚をたずねて

城福寺・陶芸館茶苑越知庵・北前船主の館・右近家ほか

福井の歴史を訪ねるKIS主催のバスツアーに参加しました。見学地は平氏一門の菩提を弔う城福寺、北前船の船主の館・右近家の建築と、茶道・陶芸をたしなむ福井県陶芸茶苑・越知庵です。

京都駅に集合したころは台風一過で晴天の一日と思われましたが、次第に日差しは薄れ、気がつけば小雨となり、夕刻には本格的な降り様となりました。しかし傘をさす一日も、日本文化の一面を肌で感じる良い機会となりました。

城福寺は鎌倉時代文治年間に、平頼盛の一族により平氏一門を弔う寺として創建されました。平清盛に嘆願して源頼朝の命乞いをして救った平氏一族ゆかり寺として、源氏の時代になってからも厚遇され、今日に至るまで血脈を保たれたとのこと。江戸

城福寺



時代には代々の福井藩主が訪れ桜花を楽しみ、能楽と茶の湯をたしなみ、庭園の鑑賞を行ったとのこと。住職不在のため奥様から寺の歴史や庭のいわれについて丁寧に説明を受け、いにしへの歴史にひとり庭の静寂さには心に沁み入るものを感じました。

色づき始めた木立の中の越知庵では、和やかに美味しいお茶とお菓子を頂きました。茶席を後にするころは、木立も遠くの山もしっかりととした空気に包まれ、石畳で雨に濡れる紅色の一葉が季節の移ろいを告げていました。



北前船主の館・右近家は、江戸中期から明治30年にかけて大阪から蝦夷地を結んだ日本海海運の北前船で活躍し、明治20年ごろに汽船を導入して近代化を進め、海上保険事業にも進出して日本火災海上保険株式会社として今日に至っています。

館は海岸線に迫る山塊の麓に位置し、建築外観の佇まいはシンプルで力強く、風雪に立ち向かう海運業の意気込みを感じさせています。内部の天井は高く吹き抜け、力強い木組みが豪壮であり、船主の館に相応しい存在感がありました。

山の中腹に位置する洋館は昭和10年に建てられ、内部は和洋折衷のデザインで、国の登録有形文化財に指定されています。

＼に立ち寄った鮮魚市場では、京都会員の方と店を渡り歩き、店主の「うんちく」に耳を傾け、お土産には特大アジの開きを買って帰路につきました。

一日の旅の中で、訪れたそれぞれの地域の自然と気候の違いが、文化・生活に大きく反映されていることも感じました。

京都会員の皆様、日向先生、いろいろとありがとうございました。

(記・渡辺 廣史)



◆もりぐち歴史館 (旧中西家住宅) ◆

11月13日(土)

現存している武家屋敷としては府下に例がない、極めて貴重な遺構であるということに興味をもち参加した。京阪電鉄・大和田駅で下車、駅前で道を確認ししばらく歩くとK氏と出会い二人で「もりぐち歴史館」を目指した。

もりぐち歴史館である旧中西家は混み入った住宅街の一角にあり、ここだけが別世界のように思えた。近世初期に尾張徳川家と姻戚関係にあり、後に尾張藩天満御屋敷奉行を務めた河内きっての名家の一つとされている。

16世紀中頃にこの地に居を構えた主屋は、度重なる再建を繰り返すが、平成10年守口市の指定有形文化財を受けるまで存続できたのは驚きである。その後、屋敷は市に寄贈され、保存の修復工事の上、今日に至っている。

建物の構造は松を主材にしている。式台や柱などもほとんど松を使用し、思いのほか武家屋敷は質素な建物であったことが分かった。

ガイドの話では、この地域一帯は旧中西家の所有地であり、庄屋も兼ねていたというが、戦後の農地改革により屋敷だけが残ったようだ。建物の紹介はすでに事務局からの案内に出ているので



長屋門



兜を被る宮本さん



省略する。

修復工事に当たって復元された、庭に突き出た茶室は床付3.5畳のちょうどいい広さの落ち着いた空間である。ここでお茶ならず、酒を呑んだらうまいだろうな、と、ふと思ったところである。

主屋は座敷の隅に刀掛があり、床の間には鎧兜や弓が展示され武家屋敷を感じる。ガイドの方から、赤塗りの兜を被せてもらった。日頃工事でヘルメットを被ることはあったが、首にズッシリ重さが伝わり、こんなに重いものであることを初めての体験で知った。これも今回の見学会で印象に残ったひとコマである。

見学会ではいつも何か新しい感動があります。皆様方も感動を求めて参加されては如何でしょうか。

(記・宮本 誠三)

青年部企画 親睦会企画
Designer's Bar + 忘年会
 OIS



今回、12月10日に行われた「Designer's Bar+忘年会」に初めて参加させていただきました。

会場であるコラムデザインセンターに行くと、暖かいお部屋にはたくさんのごちそうとお酒、オシャレな照明によって雰囲気も出ています。

忘年会が始まると、席があるにもかかわらず皆さんウロウロ。様々な方に色々なお話を聞かせていただきました。皆さんがほろ酔いになったところにゲームがスタート。そこに出てきたのは、なんとダーツ。私も含め経験者は少なく優勝争いは混とんとし、お蔭で、運と酔いとノリで投げた私は、チョッパーの景品をもらいました!! すごく嬉しかったです。

ただの学生である私にとって協会はとても新鮮で、普段関わることのない方々との貴重な交流の場です。専門的なお話を聞いたり、たくさんのお話を学んだり...

私は同じ学校の内藤さんと一緒に行ったのですが、他に年齢の近い人が少なかったのが少し残念で、最初は戸惑い気味でしたが、皆さんがとても優しく接してくださって、本当に参加してよかったですと思いました。(記・鷲岳 夏希)



篆刻教室 はゴルフ場!

事遊展の参観者が一人でも多いようにと、11月25日、その初日に合わせて開催された第2回の篆刻教室に参加した。雰囲気は何となくカルチャースクール?

宮後先生から篆刻のウンチク話があり、聞いていると少し篆刻文化を感じることができた。さっそく各自、先生に彫り込む文字を書き込んでもらった石に向かって静かに彫り始める。しばらくするとあちらこちらから『アッ!』、『ワッ!』と奇声が出る。ここはゴルフ場かと思うような声飛び交う。そのうちに自分の口から『アッ!』、声が出てしまった。刀が線からはみ出し石の外へ。『やっちゃったー!』、みんな一生懸命無心に石に向かっていく。

しばらくして、出来上がったものを先生に見てもらって、先程の『アッ!・ワッ!』が、先生にかかると味だと慰めていただく。じっくり眺めると自分でもそうかなと思ってしまう。とにかく年賀状には押しそろうに仕上がった。次の機会があれば先生に免許皆伝をいただけるよう挑戦したい。(記・河野 洋二)



宮後随想先生に手直しを受けます

2010事遊展

会期11月25日(木)~27日(土)

2010年の事遊展はコラムギャラリーで開催された。

今回はテーマを設けず、「事」=仕事、「遊」=趣味・遊び部門からの出品と、本年度実施の「陶芸教室」の作品を展示した。

初日こそ夕方に篆刻教室への参加者の見学があったが、中日、最終日ともに極めて低調



で、出展者、とくにこの事遊展のために作品を作ってくれた人をガッカリさせる結果に終わったと思うのは私だけではないだろう。次回に向けて思うことは、もっと仲間の作品に興味をもってほしい、そしてテーマを決めることも重要ではないかということだ。



森さん、おめでとう!!

森一芽さん(OIS理事で青年部顧問)が結婚されました。

式は父(森大氏)が牧師を務め、以前見学に行った「千里聖三一教会」。180名を越す人で会場は埋め尽くされるなか、宮後会長からはスピーチ、奥田専務理事はカメラマンで、他に10名ほどが列席し、一芽さんを祝福しました。新しい名字は山口、新居は舞鶴です。

一芽さんいつまでもお幸せに!
 (事務局談)

